

**令和4年第3回 岩沼市議会定例会
一般質問通告一覧表**

質問 順番	議席 番号	議員氏名	質問事項及びその要旨	答弁者
1	4	田 村 宏	<p>市長の政治姿勢について</p> <p>1. 過去の不始末について これまでの井口市政における成果は評価しているが、千年希望の丘の件や矢野目工業団地での軽油流出事故における裁判の結果に伴う支出など、税金の無駄遣いと思われるものも枚挙にいとまがない。 これらの過去の不始末を紐解き、糾弾することは、新市長の責務だと考えるが、市長の見解を伺う。</p> <p>2. 市長の政治姿勢について これからの市政の舵取りに当たっては、悪魔のささやきに耳を傾けず、正義を貫くことが重要だと考えるが、市長の決意を伺う。</p>	市 長
2	1 1	長 田 忠 広	<p>4病院の再編について</p> <p>1. 現在、県が4病院の再編を検討している中で、県立がんセンターと仙台赤十字病院を統合し、名取市に新病院を整備することとしているが、この件について市長の見解を伺う。</p> <p>2. 新病院候補地として名取市植松入生地区の民有地約4.8ヘクタールが県に提案された。岩沼市にも近い場所である。 当市には救急医療と周産期医療を担っている病院がある。救急医療では、総合南東北病院が昭和60年12月1日に開設された。また、周産期医療では、スズキ記念病院が昭和61年7月14日に開設された。35年以上も岩沼市民の命を守ってきた両病院への影響も考えられるが、当市にとってのメリット・デメリットを伺う。</p> <p>3. 2月定例会で前市長は「この4病院の統合の話が出てから、総合南東北病院、そしてスズキ記念病院に足を運んでいろいろ現状をお聞きしまして、我々にとって一番の方法を選択して県に要望していこうということで、そもそも情報の共有はいたしております。」と答弁された。そこで、市長も両病院に足を運んで意見交換をしてはどうか伺う。</p> <p>4. 今後、県に対して当市の考え方をどのように説明していくか伺う。</p>	市 長
			<p>頼れる福祉の充実について</p> <p>6月5日執行の市長選で市長は6項目の公約を選挙</p>	

(続)	1 1	長 田 忠 広	<p>公報に掲載した。</p> <p>そこで、「3・時代をつくり支えてきたシニア世代の皆さまのために」から質問する。</p> <p>1. 「長生きがあたりまえの時代、独居や介護の不安をサポートします」について</p> <p>(1) 当市の課題をどのように捉えているか伺う。</p> <p>(2) 具体的に、どのようなサポートを考えているのか伺う。</p> <p>2. 「認知症など病気の予防、早期発見で寝たきりを防ぎ、健康寿命を延ばします」について</p> <p>(1) どのような施策を考えているか伺う。</p> <p>3. 「シルバー世代が抱える生活課題の解決を支援します」については、課題の解決には相談支援の充実が必要であると考えます。</p> <p>(1) 介護（地域支援事業）、障害（地域生活支援事業）、子ども（利用者支援事業）、困窮（生活困窮者自立相談支援事業）といった相談支援に係る事業を一体として実施し、本人・世帯の属性にかかわらず受け止める包括的相談支援事業を、どのように進めていくのか伺う。</p> <p>(2) 必要な支援が届いていない相談者に対するアウトリーチ等を通じた継続的支援事業をどのように進めていくか伺う。</p> <p>4. 「障害者・生活困窮者支援を充実します」について</p> <p>(1) これまで当市で取り組んできた施策を伺う。</p> <p>(2) さらに充実すべき施策をどのように考えているか伺う。</p>	市 長
3	5	高 橋 光 孝	<p>市長の公約・市政について</p> <p>市長は、選挙公約として、力強い産業、安心の子育て・教育、頼れる福祉、徹底した行政改革、住みたい・住み続けたいまちづくりなどを掲げて当選された。市長の公約と市政について伺う。</p> <p>1. 徹底した行政改革について</p> <p>(1) 市長自らの情報発信力の強化を掲げているが、市長だけではなく、市の情報発信力も強化していかなくてはならないのではないかと伺う。</p> <p>(2) 公共施設の集約化・複合化について</p> <p>① 集約が必要と考えている施設は具体的にあるのか伺う。</p> <p>② グリーンピア岩沼のホテル事業で有限会社ホ</p>	市 長

(続)	5	高橋光孝	<p>テルテトラを貸付候補者として選定したと市政報告にあったが、利用方法は今までと同じなのか、若しくは、キャンプ場やグランピング施設など、周辺エリアを使用した新たなメニューも加わる予定があるのか伺う。</p> <p>③ ハナトピア岩沼については、今後どのように考えていくのか伺う。</p> <p>(3) エフエムいわぬまについて</p> <p>① 令和3年度事業報告書に岩沼市受託料22,873千円とあるがその内容・内訳（スポット本数、番組提供料など）はどうなっているのか伺う。</p> <p>② SNSなど瞬時に発信できる方法が増えていく中で、この受託料を今後減らしていく考えはないのか伺う。</p> <p>2. 住みたい・住み続けたいまちづくりと人口減少問題について</p> <p>(1) 市長は人口減少に向かいつつある岩沼市の人口を5万人に増やしたいとしているが、具体的にどのような施策を行うのか伺う。</p> <p>(2) 市民の皆さんより「住みやすいけど、何か足りないよね。パツとしないよね。」との意見を寄せられることが多いが、市長はこのような意見をどのように捉えているのか伺う。</p>	市長
4	10	佐藤一郎	<p>企業誘致について</p> <p>市長が公約の一つに掲げる企業誘致の取組について</p> <p>1. 矢野目西地区産業用地の一部の処分に係る議案が上程されているが、残りの区画について伺う。</p> <p>2. 今後の矢野目西地区の開発について</p> <p>(1) 市の都市計画マスタープランでは、新産業エリアとして位置付けられており、都市計画上は一般保留地区となっている。今後の取組について、市長の見解を伺う。</p> <p>3. 仙台空港フロンティアパークについて</p> <p>(1) 仙台空港フロンティアパーク地内に小型風力発電機の生産開発拠点が開設されるとの報道があったが、市には、どのような報告があったのか伺う。</p> <p>(2) 操業までのスケジュールについて伺う。</p> <p>(3) 今後、フロンティアパーク地内に進出する企業の情報はあるのか伺う。</p> <p>4. 岩沼インター周辺の企業誘致について</p> <p>(1) 2月定例会において、「サウンディング型市場</p>	市長

(続)	10	佐藤 一郎	<p>調査を実施し、民間企業10社から土地利用のアイデアや可能性などの意見や提案をいただきました。今後は、これらの提案を基に、実現性の高い都市的土地利用を検討してまいります」との報告があった。その後、どのようになったのか伺う。</p> <p>(2) 今後の取組について伺う。</p> <p>5. 宮城県津波浸水想定が公表されたことによる企業誘致への影響と対策について、どのように考えているのか伺う。</p>	市長
			<p>新庁舎建設について</p> <p>1. 昭和49年に建設された本庁舎は、大規模修繕や耐震補強を行っているものの、本格的に新庁舎建設を検討する時期にきていると考えるが、市長の見解を伺う。</p> <p>2. 新庁舎は、デジタル化の推進をはじめ市民に優しく使い勝手がよい庁舎、かつ、地震や津波災害などが発生した際には防災拠点となる施設だと考えるが、市長が考える新庁舎像について伺う。</p> <p>3. 新庁舎を建設するには、大規模な予算が必要となる。現段階から（仮称）新庁舎建設基金を創設してはどうか伺う。</p>	市長
5	3	高梨 明美	<p>健康寿命の延伸について</p> <p>国は、2019年に健康寿命延伸プランを策定し、2040年までに男女ともに2016年に比べ健康寿命の3年以上の延伸を目指すこととした。また、このプランを達成するため、「次世代を含めた全ての人の健やかな生活習慣形成」「疾病予防・重症化予防」「介護予防・フレイル対策、認知症予防」の3つの取組を推進することとしている。</p> <p>健康寿命を延伸し、元気な高齢者が増えることは、医療費の抑制や削減にもつながると考える。</p> <p>1. 帯状疱疹の予防について</p> <p>コロナ禍の中で、以前より外出を控える生活が続いていることが要因の一つと思われる帯状疱疹罹患者が増加傾向にある。帯状疱疹は、初感染で水痘を引き起こした後、知覚神経節に潜伏しているが、加齢やストレスなどで免疫力が低下することが誘因となり、再活性化を起こし、帯状疱疹として発病する場合がある。80歳までに3人に1人が発症するという報告もある。今は抗ヘルペスウイルス薬が登場し、治療成績が飛躍的に向上しているが、現在でも様々</p>	市長

<p>(続)</p>	<p>3</p>	<p>高 梨 明 美</p>	<p>な合併症や帯状疱疹後神経痛で長期間苦しむ患者さんも少なくない。この帯状疱疹後神経痛も加齢とともにリスクが高くなり、50歳以上では約2割が帯状疱疹後神経痛に移行すると言われている。</p> <p>帯状疱疹を予防することは、健康寿命の延伸を図るための疾病予防として重要な政策の一つであることから、次の点について伺う。</p> <p>(1) 罹患者数と予防に対する取組を伺う。</p> <p>(2) 帯状疱疹ワクチン接種に対する市の見解を伺う。</p> <p>(3) 帯状疱疹に関する情報提供について伺う。</p> <p>(4) 予防接種の費用助成について伺う。</p> <p>2. 糖尿病重症化予防について</p> <p>第2次岩沼市健康づくり市民計画の基本方針において、「生活習慣病の発症と重症化を予防しよう」とある。現状では、国民健康保険における医療費のうち、その約3分の1を生活習慣病の治療費が占めており、高血圧と糖尿病の患者は年々増加していることから、予防に力を入れていく必要があるとしている。</p> <p>(1) 生活習慣病予防検診未受診者、治療中断者の受診勧奨の取組について伺う。</p> <p>(2) 糖尿病に関する情報、人工透析に伴うQOL(生活の質)の低下、予防のための特定健診の重要性やその勧めなど、より市民の理解を深めるための情報提供や意識啓発が必要と考えるが見解を伺う。</p> <p>(3) 市民への意識向上のために国立国際医療研究センター配信の糖尿病リスク予測ツールを、本市ホームページとリンクさせてはどうか伺う。</p> <p>(4) コロナ禍により全国的に受診控えが進んだが、特に糖尿病の診療に関しては、感染症拡大の中でも受診の継続が重要視される。下火になったとはいえ、ウィズコロナの時代、糖尿病罹患者をはじめ感染リスクの高い方に対するオンライン診療とオンライン処方体制を医師会・薬剤師会の協力の下、構築すべきと考えるが見解を伺う。</p> <p>3. コロナ禍におけるフレイル対策について</p> <p>コロナ禍における高齢者を取り巻く環境は大きな影響を受けている。</p> <p>基礎疾患を有する高齢者は重篤化しやすいことが報道され、高齢者の活動は著しく制限されている。</p>	<p>市 長</p>
------------	----------	----------------	---	------------

(続)	3	高 梨 明 美	<p>コロナ禍で身体活動量や社会活動量の減少が長期化することで、フレイルを進行させ、身体的要素のみならず心理的、精神的にも悪影響を及ぼす。さらに、あまりにも感染を恐れるばかりに、フレイル状態の悪化が起こり、認知機能の低下、次なる感染症への免疫力の低下など、様々な負の連鎖が起こってしまう可能性がある。</p> <p>(1) 新型コロナウイルスの感染予防と併せて、生活不活発、そして人とのつながりの低下に対する予防の重要性について、市の見解を伺う。</p> <p>(2) フレイル・認知機能低下など、新型コロナウイルス感染症の高齢者に対する影響と現在の状況について伺う。</p> <p>(3) 対策と取組について伺う。</p> <p>4. 高齢者の保健事業と介護予防の取組について</p> <p>(1) 健康寿命延伸プランに掲げる取組の中で、高齢者の身体的、精神的及び社会的な特性（フレイル等）を踏まえ、保健事業と介護予防を効果的かつ効率的で、高齢者一人ひとりの状況に応じたきめ細かなものとするため、市町村における、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施を推進するとあるが、本市の高齢者の保健事業と介護予防の取組について伺う。</p> <p>5. 熱中症対策について</p> <p>(1) 近年の猛暑を乗り切るにはエアコンの使用が欠かせないが、コロナ禍においてクールシェアすることも難しく在宅時間が増えている現状もある。本市における高齢者への熱中症予防対策は、どのように周知しているのか伺う。</p> <p>(2) 熱中症から高齢者の命を守るためにも市民税非課税世帯高齢者のエアコン購入・設置費を助成してはどうかと考える。</p> <p>国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、エアコン等の購入費が捻出できない世帯に対する費用助成をしてはどうか伺う。</p>	市 長
6	1 4	酒 井 信 幸	<p>津波避難計画の改定等について</p> <p>1. 津波避難計画の改定について</p> <p>(1) 津波避難計画の改定は、いつ頃までに行うのか伺う。</p> <p>(2) 津波ハザードマップの作成は、いつ頃までに行</p>	市 長

(続)	1 4	酒 井 信 幸	<p>うのか伺う。</p> <p>(3) 指定避難所と指定緊急避難場所の見直しについて伺う。</p> <p>(4) 民間施設を避難所とすることを要請する考えはあるのか伺う。</p> <p>2. 津波避難の在り方について</p> <p>(1) 津波避難計画を改定するに当たり、避難の在り方について、沿岸部の住民の方としっかりと話し合う機会を持ち、理解や協力を得た上での策定が必要だと思いが、見解を伺う。</p> <p>(2) 新たに津波避難計画が策定された場合、今までとは違う津波避難訓練を考えなければならないと思いが、見解を伺う。</p>	市 長
			<p>企業誘致について</p> <p>1. 佐藤市長は選挙の公約で企業誘致を行い、税収と雇用を確保するとしていたが、どのように取り組んでいくのか伺う。</p> <p>2. 市として企業誘致を進めるために、産業用地整備候補地等の調査を行っているが、開発する候補地は決定しているのか伺う。</p> <p>3. 佐藤市長自らがトップセールスマンとして企業への訪問活動を行うことは考えているのか伺う。</p> <p>4. 市は、宮城県が5月に公表した悪条件下における最大クラス津波浸水想定に関して、沿岸の対象自治体に先駆け、3回の説明会を行った。</p> <p>説明会の中での住民からの意見では、いたずらに不安を煽る公表に対する風評被害について心配しているという声があったが、企業誘致を進めていく上での心配はないのか伺う。</p>	市 長
7	1	大 村 晃 一	<p>これからの子育て支援について</p> <p>市長の公約では、子育て支援にも力を入れて取り組む政策となっている。そこで、市長の子育て支援に対する考えを伺いながら、これからの子育て支援について伺う。</p> <p>1. ハナトピア岩沼の活用について</p> <p>(1) 菊地前市長は、ハナトピア岩沼の活用について、方向性としては人々の交流や子どもたちの遊び場なども考えつつ、ベースは農業振興施設として考えていきたいと今年2月定例会の一般質問で答弁していたが、市長の考えを伺う。</p> <p>(2) 2月の時点では基本構想づくりをスタートさ</p>	市 長 教育長

(続)	1	大村晃一	<p>せ、今年の10月頃には、ある程度の方向性を示したいと言っていたが、進行状況を伺う。</p> <p>(3) 基本構想づくりを今後も進めていくと思うが、どのような方々と意見を交わし、どのような流れで進めていくのか伺う。</p> <p>2. 岩沼市デジタル化推進計画について</p> <p>(1) 子育てに関する手続のオンライン化実証実験について</p> <p>① 母子手帳交付時の来庁の予約と質問票の提出について伺う。</p> <p>② 一時保育等に係る施設の利用給付償還払い申請について伺う。</p> <p>(2) 岩沼市デジタル化推進計画では、子育てに関係する手続のオンライン化を推進する期間となっている。子育てワンストップサービス等におけるデジタル化を少しでも早く進めてはどうか伺う。</p> <p>3. 子ども第三の居場所事業について</p> <p>(1) 来年2月から実施予定の事業の詳細を伺う。</p> <p>(2) NPO法人アスイクが主に事業を行っていくと思うが、市としては、事業にどのように関わっていくのかを伺う。</p> <p>4. 市長の公約の中で、学力やスポーツ力を向上させ、子どもたちの未来を広げる教育を推進していくという考えがある。昨今の物価上昇等による家計への負担はより多くなっていることから、教育支援及び子育て支援の一環として、所得制限を設けるなどして、学習塾代等の補助金制度を設けてはどうか伺う。</p> <p>5. 一時預かり事業について</p> <p>(1) 以前の一般質問でも取り上げたが、本市の受入れ開始対象となる子どもの条件は、離乳食をほぼ終えた子どもとなっている。以前の執行部の答弁では、預けられる時期を早める方向でいろいろ検討していくということだが、なるべく早めの改善に取り組む案件と考えるが、市長の見解を伺う。</p> <p>(2) 双子などの多胎児を育てている家庭の負担を軽減するため、料金改定を行ってはどうか伺う。</p> <p>6. 市長が本市における子育て支援として、今後一番力を入れていかなければならないと考えていることは何か伺う。</p>	市長 教育長
8	8	渡辺ふさ子	<p><u>市長の政治姿勢について</u></p> <p>1. 市長は選挙公約で6項目について政策を掲げた。</p>	

<p>(続)</p>	<p>8</p>	<p>渡 辺 ふさ子</p>	<p>公約に関連するもの、及び公約になかった政策について伺う。</p> <p>(1) 「時代をつくり支えてきたシニア世代の皆さまのために」では、「認知症など病気の予防、早期発見で寝たきりを防ぎ、健康寿命を伸ばします。」「シルバー世代が抱える生活課題の解決を支援します」「障害者・生活困窮者支援を充実します」と公約している。高齢による生活課題である軽度・中度の加齢性難聴者への支援について伺う。</p> <p>① 2015年に厚生労働省が策定した認知症対策の新オレンジプランでは、難聴が認知症の危険因子の一つとして挙げられている。難聴により脳に入ってくる情報が少なくなることが脳の機能低下につながり、うつ病や認知症につながるとも指摘されている。認識を伺う。</p> <p>② 軽度・中度の加齢性難聴者への補聴器購入支援は、多くの高齢者が聞こえづらさから少しでも解放され、健康で自分らしく生きるために必要不可欠な施策と考える。認識を伺う。</p> <p>③ 補聴器の価格は程度により片耳で概ね14万円から60万円、両耳となると倍以上と高額であるにもかかわらず、医療保険が適用されない。あまりにも高額なため片耳分だけ購入とか、購入できない高齢者が増加している。補聴器の利用を通じて高齢の難聴者の外出や地域交流を支援し、閉じこもりを防止し、高齢者の福祉の増進に資するため補聴器購入助成を行ってはどうか。</p> <p>④ 障害者手帳を持つ難聴者への助成制度はあるが、基本的には片耳のみ支給となっている。片耳だけだと方向性が分かりづらいとの指摘がある。両耳への支給をすべきではないか。</p> <p>(2) 「未来を担う子どもたちのために」では保育所・放課後児童クラブの待機児童ゼロ、不登校やひきこもりのサポート、教育施設等の定期的な改修、登下校時の環境整備等を掲げているが、ハード面的な印象が強い。市長選では惜敗したものの、8,130票の支持を得た村上候補は給食費無償化の段階的な実施を挙げていた。</p> <p>① 給食費無償化についての考えを伺う。</p> <p>② 円安などによる食材費の高騰が続いている。</p>	<p>市 長 教 育 長</p>
------------	----------	----------------	--	----------------------

<p>(続)</p>	<p>8</p>	<p>渡 辺 ふさ子</p>	<p>補正予算の計上はなかったが、子育て支援のため子どもたちの栄養を確保しつつ、給食費の値上げにならないよう手当してはどうか。</p> <p>(3) 「市民目線で徹底した行政改革を推進」の「公共施設の集約化・複合化で利便性の向上と維持管理費の無駄を削減します」について</p> <p>① 公共施設の集約化では地域での身近な施設が無くなることも懸念される。利便性の向上と相反するのではないか。</p> <p>② 無駄を無くし、経費を削減するのは大事だが、市民サービスの低下であっては意味がない。行政目線ではなく市民目線での改革推進のための手立てをどのように考えていくのか伺う。</p> <p>(4) 市長選の前に私も所属している女性団体から3人の候補者に質問状が出され、それぞれ回答を得たことについて伺う。</p> <p>① カジノを含むIR導入について、佐藤淳一候補は「必要ない」と回答した。市長になった今でも考えは変わらないか伺う。</p> <p>② コロナ禍で経済的理由により生理用品が買えない実態が明らかになったが、経済的理由だけでなく、子どもたちの健康と学習権を守るため、またジェンダー平等やリプロダクティブ・ヘルツ/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の観点からも生理用品の学校のトイレ配備を求めたが、佐藤淳一候補からは無回答だった。他候補からは「トイレに配置すべき」また「市内学校において生理用品の無料配布を公約に掲げています」との回答だった。</p> <p>ア ジェンダー平等についての認識を伺う。</p> <p>イ 性別による差別や格差を無くし、全ての人がいきいきと活躍できる社会の実現に向けたジェンダー平等について、市職員も含め市民の意識向上を図る場や対策を講じていくべきと考えるがどうか。</p> <p>ウ リプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点から女性の人権を尊重し、また、学校での包括的性教育の必要性からも学校のトイレに生理用品の配置をすべきではないか。</p> <p>エ まず、モデル校からの試行を行ってはどうか。</p>	<p>市 長 教 育 長</p>
------------	----------	----------------	--	----------------------

9	6	布田 恵美	<p>防災・減災事業の推進について</p> <p>1. 防災士の活用について</p> <p>(1) これまで、議会一般質問の中で数回に渡り、防災士資格取得者の活用について取り上げてきた。中でも市内在住の防災士の組織化を行い、いざというときに避難所運営スタッフとしてサポートできるような仕組みの構築も提案してきた。現在、どのように取組を進めているのか伺う。</p> <p>(2) 先日開催された防災士向けの、マイ・タイムライン研修会や避難所開設訓練も、防災士を巻き込んだの良い取組と言える。一方で、参加している防災士からは、「資格は取得したが、果たして、市内のどこに防災士がいるのか。それぞれが、どんな活動をしているのか。せつかく公費負担で育成している防災士もいるのに、横のつながりが乏しいのではないか。」という声もあった。今後、ますます高齢化率が上がり、職員だけが避難所を対応するのではなく、地域での支援体制構築も大切なことかと考える。避難所ごとの具体的な運営マニュアル、特に人員配置など、どこまで進んでいるのか伺う。</p> <p>(3) 防災士のネットワーク作りについて、現状から前進していくべき時期にきていると考えるが、いかがか。</p> <p>(4) ある地区においては、市が数年前から進めてきた「防災士育成支援」について、市役所から届いた文書をそのままにして周囲に情報伝達もせず放置してきた、と聞いた。非常に残念なことに、当該地区に在住する市民の方は必要を感じて、自費で資格取得をしたとも聞いた。災害時には役所が何でもすぐに対応してくれるわけではないこと、自助、共助、公助、そのための一助として自主防災組織や防災士があることなど、機会を捉えて繰り返し伝えていくべきだと考えるが、いかがか。</p>	市長
			<p>フードドライブ事業について</p> <p>1. 昨年から開催しているフードドライブ事業は、市民の皆さんや関係者の理解と協力により、回を重ねて定着しているやに見受けられる。4月に実施された今年1回目の事業でも、食糧約280キログラムが提供されたと聞く。そのほかにも、コンビニチェーンが独自で店内に回収ボックスを設置して実施してい</p>	市長

(続)	6	布田 恵美	<p>ることも見聞きする。</p> <p>(1) 当市での回収ボックス設置箇所のスーパーは、近隣の市町からの利用者もあり、家庭での「食品ロス」を削減するため、そして、提供食品は必要な方への支援として活用することから、行動を起こしやすい、という感謝の声もある。家庭で余剰の食料品を改めて窓口などに持ち込もうとしたときに量が少ないと気が引ける、と言う。今年度、市として秋にもう一度、開催予定と聞いているが、通年で回収ボックス設置を検討してはどうか。</p>	市長
			<p><u>安心安全な暮らしについて</u></p> <p>1. 男子トイレへのサンタリーボックス設置について</p> <p>日頃、使用する機会が無い男子トイレについて、とても深刻なニュースが流れていた。男子トイレにも尿漏れパッドなどを捨てるサンタリーボックスの設置を求める方の声を取り上げられていた。女子トイレには当たり前前に設置されているサンタリーボックスが無いために、不自由しているという事例である。現在、尿漏れパッドやおむつを使用する人は増えている。「日本衛生材料工業連合会」のまとめでは、2020年の推計で紙おむつの使用人口は大人用が377万人であり、342万人の子ども用を上回る数となっている。また国立がん研究センターによると、2018年に男性が新たに診断されたがんは、術後に尿もれに悩む人がいる「前立腺がん」が最も多くなっている。がんやほかの病気や加齢で尿漏れパッドを使用する人がいても、「交換した物を捨てる場所がなくて困っていた」と日本トイレ協会が今年2月に行ったアンケートの回答を報告している。中には数回分を持ち帰っている、という方もある。</p> <p>(1) 議会棟、庁舎内においても職員の立会いのもと男子トイレを調査したが、サンタリーボックスは見当たらなかった。民間企業においても必要な人が困らないようにと設置の動きが出始めている。是非に男子トイレにサンタリーボックス設置を進めてほしいと考えるが、いかがか。</p>	市長